



GOOD NEWS ときのコエ

War Cry

10月号

福音版
2018
October
No.2773

二〇一八年 十月一日発行 明治二十八年創刊 福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

等しい愛を示すイエス

シエリル・メイナー

著名な神学者カール・バルトのアメリカ・シカゴでの逸話です。彼の滞在は、

「イエスは私を愛しています。聖書がそう教えているので、私はそのことを知っています」(賛美歌「主我を愛す」の英語詞)

「バルト博士、あなたは今世紀最大の神学者と目されています。ご自身で大切にされている、最も深い神

学的思想は何ですか？」バルト博士は一瞬考えて答えました。「イエスは私を愛しています。聖書がそう教えているので、私はそのことを知っています」(賛美歌「主我を愛す」の英語詞)



る、神が私たちを愛するゆえに、神の御子を世に送ってくださった、ということを示しました。また、聖書の基本的な目的は、イエスの内に神の愛が表されていることを示すことにある、と表現したのです。

イエスは、神の愛を数えきれないほどの方法で明らかにされ、すべての人々に対する神の無条件の愛を表されました。

イエスの時代、「平等な権利」は想像しがたいものでした。女性は男性と同等の権利をもたず、軽んじられる存在でした。当時、女性のいるべき場所は家で、子どもを産み、育て、心地良い家庭を保つ責任がありました。また、男性は公共の場では女性に挨拶もしませんでした。女性はいつでも、父親や、夫、寡婦となつたならば、親族関係にある男性の権威と保護の下にあったのです。

はありませんでした。イエスは彼の弟子たちが葬列の一群に出合った時のことです。イエスは、息子を亡くしたばかりの寡婦に話しかけるため、その葬列を止められました。彼女は疲れ果てており、彼女を精神的にも、経済的にも支える人はいませんでした。けれどもイエスは、息子を生き返らせ、状況を変え、愛と配慮をこの孤独な貧しい女性に示されました(ルカによる福音書7章11-17節)。

またイエスは、他の人々の考えに縛られる方ではありませんでした。ある時、会堂で十八年もの間、腰が曲がり、伸ばすことのできなかった女性に、イエスは「病気は治った」(ルカによる福音書13章12節)と告げ、信仰の父である「アブラハムの娘」(同13章16節)と彼女のことを表して、尊厳を示されました。イエスの大いなる愛は、病によって汚れた者と見なされていたその女性に触れることによつて明らかにされました。

さらに、イエスは外国人であるサマリアの女性と会話をしています。威厳をもつたユダヤの男性はこのような外国の女性と一緒にいることはしませんでしたし、会話をすることなどありませんでした。イエスはそのような文化的行動規範を無視し、話しかけ、彼女の価値を認められたのです(ヨハネによる福音書4章4-42節)。

イエスが彼女に話しかけられた時、その女性も驚いて言いました。「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか。」(同4章9節)

聖書の福音書には、イエスが女性に示された無条件の豊かな愛の記事が他にも数多くあります。今、私たちはイエスが生きておられた時代とはすっかり変わった文化の中に生きていますが、今も孤独で、傷つき、助けを求めて声をあげている人々があらゆる場所に存在しているのです。

聖書が今日生きる私たちに伝えたいことの中心は、「イエスは私を愛しています。聖書がそう教えているので、私はそのことを知っています」です。

あなたは、イエスの愛をご存じですか？ イエスは尊厳、配慮と、思いやり、希望、癒しの力などを豊かにもつてあなたを待っています。イエスは、あなたとも親しく関わりたい、と望んでおられるのです。

(救世軍士官(伝道者))

聖書の言葉と祈りに支えられて

学生時代をミッションスクールで過ごして

静岡県清水に近い、興津の北四キロの位置にある小島のミカン農家に生まれました。大家族で、いつも約十人がいるような家の、きょうだい五人の末子に生まれました。十月から三カ月は、ミカンの作業の手伝いに来る人もあって、家は

つも人でいっぱいでした。家の中には、お荒神さん、恵比寿、天神、稲荷、不動明王、仏さん、庚申さん、といった神様がおり、私がお供えをする係でした。そんな中、姉が静岡英和女学院(ミッション・スクール)に中学から通うように

気持ちが落ち着かなくなって

私が十八歳の時に父が、そして二十八歳の時に母が亡くなりました。その年には結婚もして、私の環境がすっかり変わってしまいました。

婚家は商売をしていたので、人の出入りも多くあり、何気ない会話も上手にできないことに自己嫌悪になり、新しい環境になじめなかつたり、という中で過ごすようになりました。

あまりに自分の気持ちが落ち着かないので、さみしさがあるのか、長男が生まれた時には、自分の味方が一人できたようにさえ感じました。

けれども、それでも気持ちが不安定なので、このままでは良くないと思い、子どもが幼稚園の頃から子どもを連れて、教会に行き始めたのでした。

学生時代以来ですが、聖書の勉強をし直したら、自分の生き方が見え、落ち着くかしたら、と聖公会のヤコブ教会へ通うようになりました。教会に行っていることは、主人には言いませんでしたが、家族には言えませんでした。主人も、休みの日に

することだから、と送り出してくれました。

ヤコブ教会での楽しい思い出はいっぱいあります。中学、高校とわからないながらも、教会に通っていたことが大きかったのだでしょう。深い悩みの中で、ヤコブ教会に行ったので、教会での学びやお話を通して、イエス様が自分を救ってくださることが、よくわかりました。

ちょうどそのころ、知り合いからほかの宗教も勧められたのですが、私は教会に行つて、自分が求めていたものがある、「ここで良かった」と思いましたので、洗礼を受けました。

ヤコブ教会で教えていただいたことなのですが、毎晩、聖書の中の詩編の指定された場所を読み、祈る習慣ができました。その習慣は今でも続いています。

その後、ヤコブ教会に通って十年を過ぎたころ、子どもたちが大きくなってお金が必要になってきたので仕事に出るようになりました。すると、日曜日はお休



静岡英和女学院時代



鈴木 タツヨ

なり、私も中学から通い始めました。学校は土日が休みですが、日曜日には必ず教会に行かなければなりません。そこで、学校の聖書の先生がおられた興津の教会へ行きました。学校でも教会でも賛美歌を歌って、聖書のお話を聞いて、という生活でしたが、欲がないというか、しつかりしていなかったのか、正直、何も心に留まっていなかったように思います。学校を卒業すると教会には行かなくなつたのですが、先生から聖書の「賜物」の話を聞いて、私の賜物って何だろう?と思つたことを覚えていま

また、宣教師の先生が、「山上の垂訓」(イエスが、山の上で語った言葉)から、「悲しんでいる人たちは、さいわいである……」(マタイによる福音書5章4節 口語訳聖書)と、普通の考え方とは反対のことをおっしゃったことが心に残っています。

救世軍への出会い

これからこの教会へ行くのか、と迷っていた時に、通りかかった救世軍清水小隊(教会にあたる・現在の静清小隊)に入ってみました。すると、小隊長(牧師にあたる)の熊田尚武少佐と奥様のハナ少佐が、よく話を聞いてくださいました。ハナ先生には本当にお世話になりました。悩み事があったり、困ったことがあると、「大丈夫よ、大丈夫よ」と笑顔で言ってくださるので、ホッとして、教会に行くのが本当に楽しみになりました。

ループが中心になって集めているのです。家庭団は楽しいし、お互いに仲良くなるのには一番の集まりです。自分が一円献金を献げても大して役に立たないだろうとも思うのですが、みなさんで集めて、誰かのためになることが実際にできていることを思うと、こういう機会が与えられている救世軍でありたいな、と思つています。来て良かったなと思つています。

孫は、幼稚園の時に交通事故に遭いました。その朝すぐに電話が来て、五メートルも飛ばされたと言うのです。血液型が同じなので輸血が必要なら病院に、と思つたのですが、まずお祈りしてもらおうと、小隊長に行きました。小隊長は、長い時間かけて一緒にお祈りをしてくださいました。

孫は、幼稚園の時に交通事故に遭いました。その朝すぐに電話が来て、五メートルも飛ばされたと言うのです。血液型が同じなので輸血が必要なら病院に、と思つたのですが、まずお祈りしてもらおうと、小隊長に行きました。小隊長は、長い時間かけて一緒にお祈りをしてくださいました。

に進んだほうが良いと思つています。義母は、十五年前に亡くなりました。生前、教会のみなさんと「花の日」(キリスト教会の行事。感謝の気持ちを表す花を持って訪問する日)に、花を持って義母を訪問しても、義母は愛想のない様子でした。けれども、遺品の整理をして

り、それまで抱えていた、様々な気持ちが、スーッと楽になりました。最近、雨の時には主人が教会まで送ってくれるので助かっています。また、信仰についても主人に話せるようになってきました。これからも教会に通い続け、いつか家族の誰かが教会に連なってくれたらありがたいな、と思つています。



(写真上) 1998年、正式に救世軍の信徒となった記念に、熊田小隊長(中央)と。(写真下) 今年のお正月に家族と

また、長男の嫁が病気になる時、小隊長などにお祈りしていただき、今は、薬も飲まなくて済んでいます。離れて暮らしている子どもたちなので、困った時にすぐには飛んで行けません。お祈りがひよっとしたことで助けてくださる、と感じ

わしくないことをやってしまった時には、「神様ごめんさい、明日しないように気をつけます」とお祈りしています。だからこそ、先ほどの聖書の言葉を自分のそばに置いていたと思います。しよつちゅう(言い過ぎた)ということもあり、特に主人にはついに言い過ぎていくかもしれせん。失敗や誤りの連続の中にも、お祈りした時の幸いをいつも味わっています。なにか失敗しても、「ごめんさい」と一区切りして前

クリトリ
ご住所
ご氏名
私の近くの救世軍を紹介してください。
キリスト教についてもつと知りたいたいです。
『ときのかえ』の購読を申し込みます。
ご住所
ご氏名
私の近くの救世軍を紹介してください。
キリスト教についてもつと知りたいたいです。
『ときのかえ』の購読を申し込みます。

この部分を封書か葉書に貼り、裏面の救世軍にお送りください。



2016年、静清小隊のみなさんと(立っている列右から2人目)

創立者 ウィリアム・ブース 大将 プライアン・ペドル (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ケネス・メイナ (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈日本〉西日本豪雨の被災地支援 (続)

西日本豪雨の被災地支援のために、各地でキリスト教会の支援ネットワークが組織されました。

●広島県呉地区—2014年8月に広島市北部で起きた大規模土砂災害の被災地を支援するため、救世軍を含む地域のキリスト教会(広島宣教協力会)によって、「キリスト教会・広島災害対策室」が組織されました。今回、西日本豪雨による被害の大きかった呉地区の支援のためこの組織を母体にした、「キリスト教会・広島災害対策室・呉ボランティアセンター」が7月17日に設立されました。豪雨被害の小さかったインマヌエル呉キリスト教会が拠点となり、8月10日まで5つの教会と1団体の会堂や施設を借りた「宿泊プロジェクト」を実施。全期間、日本国際飢餓対策機構(新名称ハンガーゼロ)とサマリタンズパース・カナダのスタッフが派遣されました。

支援活動として、断水時の給水支援に始まり、各地から寄せられた高圧洗浄機やスコップ、土嚢袋を用いての家屋・道路の泥かき、土嚢袋・がれきの撤去、家屋の清掃や庭の掃除に従事しました。全国各地の教会や団体から延べ1,000人以上のボランティアが活動に参加しました。



8月10日以後、9月末まで週2回の「泥かき清掃」と「重機プロジェクト」(「キリスト教会・広島災害対策室」が地元の工務店と災害時の重機利用と人員提供の有料契約を結んでいたことで実現)は、継続されました。

特に呉市で最も被害が大きかった天

地地区は救世軍の社会福祉施設に隣接した地域のため、地元の福祉関係者との連携が地域のニーズに応える基盤となることができました。支援の様子 Facebook (https://www.facebook.com/hksaigai/) で紹介されています。

●岡山県一岡山でも「岡山キリスト災害支援室」が設立され、真備町、小田郡矢掛町、高梁市などで支援活動を行いました。救世軍もその支援活動に参加し、泥の撤去をおこないました。



〈サモア〉救世軍が活動する国と地域が131に!

救世軍は、8月1日、南太平洋の島国であるサモア独立国(旧:西サモア)において救世軍の働きを正式に開始しました。すでに数カ月前より、アルコールや薬物依存の人々のための治療支援施設や小隊(教会にあたる)の働きは始められています。サモアでの活動開始を受けて、救世軍が活動する国と地域数は131となりました。



救世軍とは? What is the Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍はイギリスに国際本部があるプロテスタントのキリスト教会です。創立者はイギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブース。1865年、東ロンドンのスラム街で、どのような境遇の人もイエス・キリストを信じるならば救われる、と伝道を始め、飢えている人には食べ物を、家のない人には宿泊場所を、仕事のない人には職業の斡旋を、アルコールにおぼれる人や搾取されている女性たちには、回復・更生のための施設を提供し、物心両面からの救いを目指しました。やがてこの働きを押し進めるために、軍隊流の組織を取り入れ、「The Salvation Army」と名づけました。

救世軍では、設立当初から女性の士官(伝道者)を積極的に養成し、伝道の最前線での活動に従事させました。救世軍の母と言われる、ウィリアム・ブースの妻、カサリン・ブースも自ら説教し、『女性の宣教』など、著書も多く残しています。

日本では1895(明治28)年に働きが始まりました。日本人で最初に士官になった山室軍平は、社会問題に取り組み、廢娼運動や結核療養所設立などに力を尽くして、キリスト教界だけでなく、明治~昭和初期の社会福祉史にもその名を残しました。

現在、日本の救世軍では、43の小隊と、19の社会福祉施設、2つの病院(ホスピス併設)を通して、働きを進めています。また、街頭生活者支援、災害被災者に対する長期にわたる支援をおこなっています。

10月、救世軍の女性を中心となり、海外の貧しい地域に生活する子どもや女性のために一年間かけて貯めた「一元献金」を献げる時をもっています。今年集められたものは、カリブ地域にあるスリナムの児童養護施設に送られます。



(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではおられません。これらの問題はお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

発行日 福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

定価 福音版・一部 四〇〇円 広報版・一部 一〇〇〇円 クリスマス特集号(十一月一日) 一部 一〇〇〇円 振替・〇〇二八〇一五四〇〇

発行兼 救世軍 印刷人 代表者ケネス・メイナ 編集人 寺澤 眞由子

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番

電話 東京(03)三三七〇八八一

印刷所 救世軍本営 図書印刷株式会社